

製品名: PAI-1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab15700**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	47kDa

抗原情報

遺伝子名	SERPINE1
別名	SERPINE1; PAI1; PLANH1; Plasminogen activator inhibitor 1; PAI; PAI-1; Endothelial plasminogen activator inhibitor; Serpin E1
遺伝子 ID	5054.0
SwissProt ID	P05121
免疫原	抗血清はヒト PAI-1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 266-315

背景

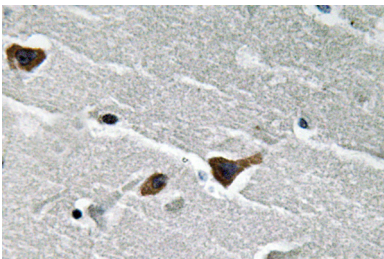
この遺伝子は、セリンプロテアーゼインヒビター（セルピン）スーパーファミリーのメンバーをコードします。このメンバーは、組

組織プラスミノゲン活性化因子 (tPA) およびウロキナーゼ (uPA) の主要な阻害因子であり、したがって線溶を阻害します。この遺伝子の欠陥は、プラスミノゲン活性化因子インヒビター 1 欠損症 (PAI-1 欠損症) の原因であり、遺伝子産物の高濃度は血栓形成能と関連しています。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが見つかっています。[RefSeq 提供、2009 年 9 月]、疾患: SERPINE1 の欠陥は、プラスミノゲン活性化因子インヒビター 1 欠損症 (PAI-1 欠損症) の原因です [MIM:173360]。この欠損症は、血漿中の SERPINE1 欠陥による異常出血を特徴とする。、疾患:高濃度の SERPINE1 は、血栓形成症 [MIM:188050] と関連付けられている。これは常染色体優性遺伝疾患であり、罹患した個人は重篤な自発的血栓症を発症する傾向がある。機能:この阻害剤は、組織プラスミノゲン活性化因子、ウロキナーゼ、およびプロテイン C の「おとり」として作用する。TPA との急速な相互作用は、線溶の制御における主要な制御点として機能する可能性がある。、オンライン情報:プラスミノゲン活性化因子阻害剤 1 エントリー、PTM:ウロキナーゼ型 (u-PA) および組織型 (TPA) のタンパク質分解攻撃によって不活性化され、369-Arg-|-Met-370 結合が切断される。、類似性:セルピンファミリーに属します。、サブユニット:VTN と相互作用します。LRP1B に結合します。結合後、内部移行および分解が起こります。、組織特異性:血漿、血小板、内皮細胞、肝細胞癌、線維肉腫細胞に存在します。、

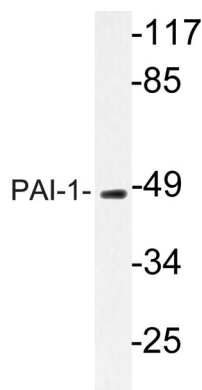
研究分野

p53;補体と凝固カスケード;

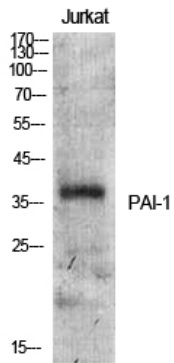
画像データ



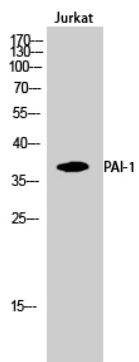
パラフィン包埋ヒト脳組織における PAI-1 抗体の免疫組織化学分析。



PAI-1 抗体を使用した、Jurkat 細胞の溶解液のウェスタン ブロット分析。



PAI-1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



PAI-1 ポリクローナル抗体を用いた Jurkat 細胞のウェスタンブロット解析